

大陸産野生個体が郷公園で繁殖中！

放鳥個体 J0405 (2006 年生れ、オス) と大陸から渡来した野生個体 (推定 2005 年生れ、メス) のペアが、コウノトリの郷公園内に設置した仮設人工巣塔において現在繁殖中です。

この野生個体は、2006 年に豊岡での飛来が確認され、その後豊岡と愛媛県とを行き来していたことから通称「エヒメ」と呼ばれるようになりました。このペアは当初、非公開ゾーン内の飼育ケージ近くに設置した仮設人工巣塔で営巣しており、2010 年、2011 年と繁殖に成功し、ヒナをこれまで 4 羽巣立たせました。昨年度、鳥インフルエンザ等に対する防疫対策の観点からこの巣塔を撤去することになり、里山保全ゾーン内の山腹に新たな巣塔を建てましたが、営巣場所を定めることができませんでした。そして今年度新たな仮設人工巣塔を設置したところ、4 月上旬に抱卵、下旬には孵化が推定されました。

なお、この巣塔での繁殖の様子をライブ映像でインターネット配信しています。当公園ホームページから閲覧可能です。また、当園敷地内にあります豊岡市立コウノトリ文化館内学習室には、見学用のフィールドスコープと双眼鏡を常備していますので、ぜひお立ち寄り下さい。



鶴見カフェのお知らせ

郷公園の研究員等とコウノトリについて気軽に話しあう鶴見カフェを、毎月第 3 日曜日の午後 4 時から豊岡市中央町のサンストークアベニュー内「なごみ茶屋」(兵庫県豊岡市中央町 3-37) で行っています。お気軽にご参加ください。飲物・ケーキ代 500 円程度が必要です。(詳しい内容等は当公園のホームページ内お知らせ欄をご覧ください。)

平成 25 年度 定例観察会「ガイドウォーク」のご案内

毎月第 3 土曜日の午後 1 時 30 分から、ガイドウォークを行っています。園内を歩きながら、生き物にやさしい施設の工夫や環境 (コウノトリ育む農法) などの案内、園内の生き物観察、コウノトリの話等をしていきます。午後 1 時 15 分から正門前の掲示板横で受付ています。歩きやすい服装でお越しください。

コウノトリの個体数 (H25. 4. 30 現在)

1 飼育コウノトリの個体数

区 分	オス	メス	計
県立コウノトリの郷公園	28	33	61
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	14	12	26
養父市八鹿町伊佐地区放鳥拠点	1	1	2
朝来市山東町三保地区放鳥拠点	1	1	2
計	44	47	91

2 野外にいるコウノトリの個体数

区 分	オス	メス	不明	計
放鳥コウノトリ	6	10		16
野外繁殖により増えたコウノトリ	12	26	4	42
野生個体		1		1
計	18	37	4	59

コウノトリ通信に関するご質問・ご意見等がありましたら下記まで Eメール又は電話等でご連絡ください。

問い合わせ先
 兵庫県立コウノトリの郷公園
 〒668-0814 豊岡市祥雲寺字ニヶ谷128番地
 TEL: 0796-23-5666
 FAX: 0796-23-6538

E-mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
 ホームページ : http://www.stork.u-hyogo.ac.jp
 開園時間 : 9:00~17:00
 休園日 : 毎週月曜日 (休日に当たるときはその翌日)・12月28日~1月4日

コウノトリ通信

(題字: 山岸哲園長)

兵庫県立コウノトリの郷公園
 平成 25 (2013) 年 5 月 1 日発行

No.7

巣に餌を運ぶ親鳥

兵庫県立コウノトリの郷公園 田園生態研究部 主任研究員 内藤和明

コウノトリは高いところに巣を作るので、ヒナが孵化してから巣立ちまでの間は親鳥が巣に餌を運んできてヒナに与えます (晩成性)。観察していると、親鳥はいつも同じように餌を探して飲み込み、巣に戻って来ます。巣にいるヒナがビービーと鳴いて餌をねだると、それが引き金になるのか親鳥は飲み込んでいた餌を巣の中に吐き出すのです。ヒナは吐き出された餌を盛んに食べ始めます。一方で親鳥は、吐き出した餌をクチバシでつまんで、自分もひとつずつ再び食べてしまいます。この行動はヒナがまだ小さいときに目立ち、ヒナが食べ切れない餌を親鳥が食べることで巣の中を清潔に保ったり、餌を食べる行動をヒナに促しているのだと思われます。

親鳥が吐き出す餌は、多くの場合は比較的小さなものが塊となって一緒に出てくるので、ひとつひとつがどんな生き物なのかを区別することができません。コウノトリがヒナを育てるのは 5 月から 7 月くらいを中心にした時期で、この時期にコウノトリは水が張られた水田の中で餌を探すことが多いので、最も多くいる生き物であるオタマジャクシ (幼生) やカエル (成体) が多く含まれると推測されます。

稀に、離れて観察していても吐き出した餌がなんであるかが分かることがあります。私が見た例のひとつは全長 20cm 位の大きさのフナでした。(写真 1) どこで採ってきたのか正確にはわかりま



せんが、この時期には産卵のためにフナやナマズが水田周辺の浅い場所 (主に水路) に遡ってきますから、そうした場所で捕らえたのだと思われます。ただ、現在の水田のほとんどは水路との間に大きな段差があり、水田の中にまでフナやナマズが入って産卵できる場所がごく限られています。魚道などの工夫により水田の中にまで魚が入れる環境が広がれば、このような大きな魚を捕る機会がもう少し増えると期待されます。

もうひとつは、全長 80cm 程度のヘビでした。(写真 2) ヒナが尾の方をくわえて食べようとするのですが、長いのでなかなか食べ進むことができません。その間に反対側を親鳥がくわえてたぐり寄せるように食べ進みました。結局、親鳥のほうが食

写真 1 親鳥が吐き出しかけているフナを食べようとするヒナ

べるのが早いので、ヒナがくわえていた端っこまで親鳥の胃袋に収まる結果となりました。どうやらこのときのヒナの大きさに比べて、餌としてのヘビは大きすぎたようです。ヒナが孵化して最初の2週間程度の間は、親鳥のどちらかが必ず巣にとどまってヒナを守ります。また、孵化から1か月ほど経ち、最も多くの餌を食べる時期には親鳥の2倍近く食べるようですから、餌運びだけでも親鳥にとっては大変な仕事だと思われます。



写真2 ヘビを運んできた親鳥

とおいで じょうほう
遠出しているコウノトリ情報 (平成25年3-4月に確認した飛来場所)

- J0016 (2009年生れ、メス) 山梨県北杜市、長野県大町市、長野県白馬村、福井県小浜市、京都府綾部市、(現在は豊岡市)
- J0022 (2010年生れ、メス) 鹿児島県南さつま市、滋賀県東近江市、三重県鳥羽市、島根県浜田市、滋賀県長浜市
- J0030 (2011年生れ、メス) 石川県珠洲市
- J0043 (2011年生れ、メス) 石川県珠洲市
- J0044 (2011年生れ、オス) 滋賀県長浜市
- J0048 (2012年生れ、オス) 香川県丸亀市
- J0057 (2012年生れ、オス) 和歌山県和歌山市、滋賀県長浜市、富山県高岡市、富山県下新川郡、富山県黒部市、福井県越前市
- J0059 (2012年生れ、メス) 兵庫県多可郡、兵庫県加東市



J0016 写真提供
長野県白馬村
松沢氏 (3月19日撮影)

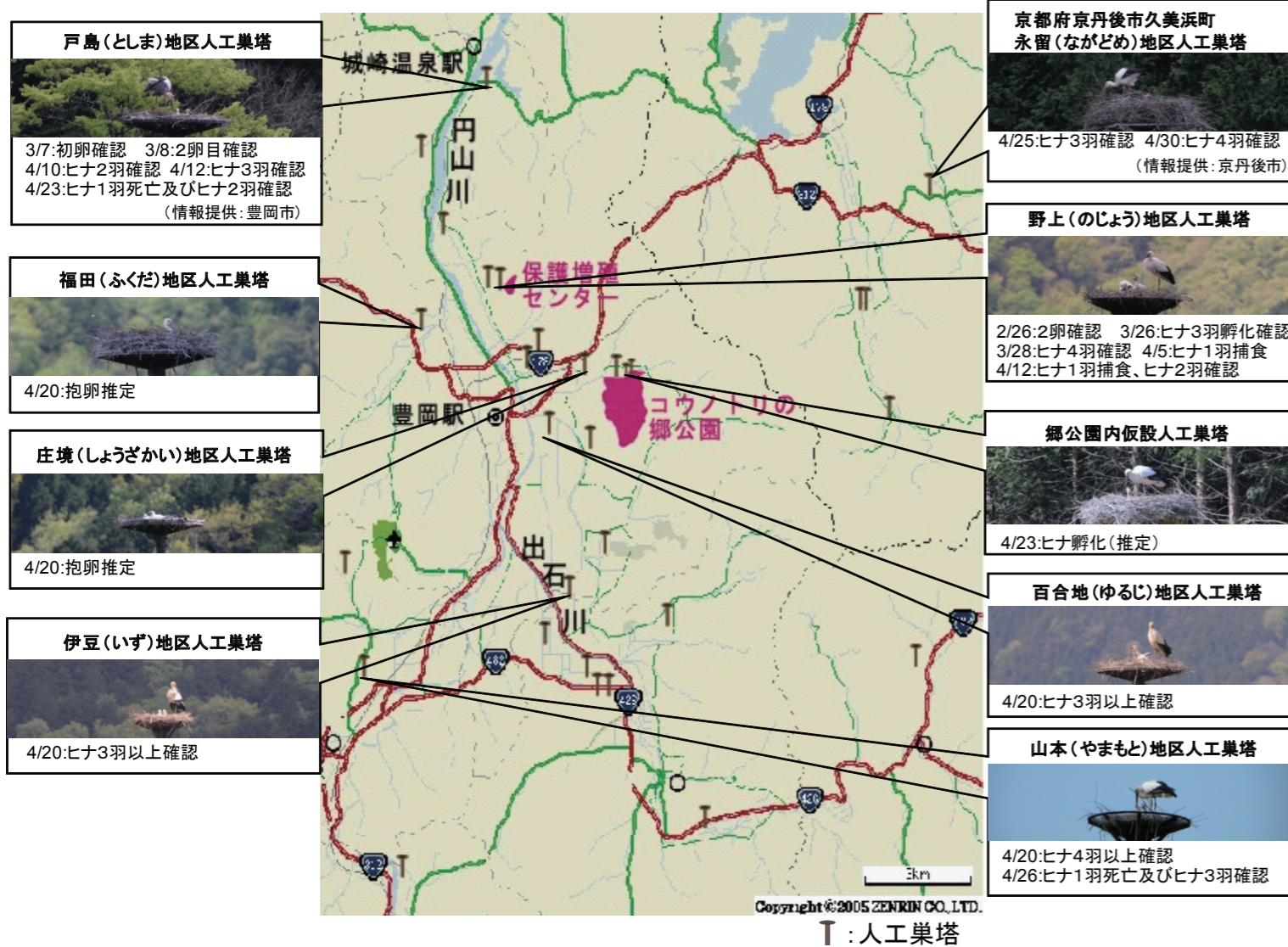


J0057 写真提供
和歌山県和歌山市
土橋氏 (4月7日撮影)

やがい ことし はんしよく こうどう
野外コウノトリ 今年の繁殖行動

昨年(さくねん)は、野外(やがい)で6カ所(じょ)の人工(じんこう)巣塔(すとう)から過去(かこ)最高(さいこう)の14羽(わ)が巣立(すだ)ちました。また、野外(やがい)で繁殖(はんしよく)した個体(こたい)同士(どうし)のペア(ぺあ)が初(はじ)めて誕生(たんじょう)し、そのペア(ぺあ)から国内(こくない)初の野外(やがい)第3(だい)世代(せだい)の誕生(たんじょう)がありました。今年(ことし)は、これまで(これまで)に9カ所(じょ)の人工(じんこう)巣塔(すとう)での営(えい)巣(そう)が確認(かくにん)されており、20羽(わ)以上の巣立(すだ)ちが期待(きたい)されています。以下(いげ)に各(かく)巣塔(すとう)での繁殖(はんしよく)の様子(ようす)をお知らせ(し)します。

H25/4/30現在



郷公園で確認したいきもの (3月1日~4月30日)

[貝類] マジミ	ガガンボ ガムシ カワトンボの仲間 クマハチ コオイシシの仲間 タイコウチ ヘビトンボの幼虫	キセキレイ キビタキ キンクロハジロ クサシギ コウノトリ(野生) コゲラ シジュウカラ ジョウビタキ スズメ	コウモリの仲間 ニホンイノシシ(土耕跡) ニホンジカ	ドクダミ ナジスミレ ハコベ フキ(フキトウ) マムシグサ ミチタネツケバナ ムラサキサギゴケ ヤハズエントウ ワスレナグサ
[クモ類] アシナガグモ クサグモの幼体 コガネグモの幼体 ゴミグモ スジフトハシラクモ スグロコグモ	[両生類] アカガエル(卵塊とオタマジャクシ) シュレーゲルアオガエル(卵塊) トノサマガエル ニホンアマガエル	[両生類] セグロセキレイ ダイサキ ツグミ ツバメ トビ ハクセキレイ ハシブトガラス ハシホソガラス ヒトドリ フクロウ ホオジロ コガモ メジロ	[爬虫類] シマヘビ ニホンイシガメ ニホンカナヘビ ニホンカゲ	[植物 / 主に開花中のもの] 《草本》 アカカタハミ アリアケスミレ オオイヌノフグリ カタハミ キュウリグサ コハコベ サワオグルマ セイヨウタンポポ タチイヌノフグリ タチツボスミレ スギナ(ツクシ) ツボスミレ トキワイカリソウ
[甲殻類] スジエビ ミナミヌマエビ	[鳥類] アオサギ アトリ イカル イソヒヨドリ エナガ カイツブリ カシラダカ カルガモ カワウ カワセミ カワラヒワ	[魚類] カマツカ カワムツ カワヒガイ キタノメダカ タイリクバラタナゴ ドジョウ ドンコ ヨシノボリの仲間	[哺乳類] イタチの仲間(糞) アナグマ	《木本》 アカマツ アセビ ウツミズサクラ キンキマメサクラ コバノミツバツツジ コブシ サンショウ タニウツギ タムシバ フジ ミツバアケビ ゴヨウアケビ マルバマンサク ヤエヤマフキ
[昆虫類] アシナガハチの仲間 イトトンボの仲間のヤゴ	[鳥類] アオサギ アトリ イカル イソヒヨドリ エナガ カイツブリ カシラダカ カルガモ カワウ カワセミ カワラヒワ	[魚類] カマツカ カワムツ カワヒガイ キタノメダカ タイリクバラタナゴ ドジョウ ドンコ ヨシノボリの仲間	[哺乳類] イタチの仲間(糞) アナグマ	《木本》 アカマツ アセビ ウツミズサクラ キンキマメサクラ コバノミツバツツジ コブシ サンショウ タニウツギ タムシバ フジ ミツバアケビ ゴヨウアケビ マルバマンサク ヤエヤマフキ



コバノミツバツツジ



ヤブヘビイチゴ



カワヒガイ



ムラサキサギゴケ